

Ⅱ期選抜、昔は

Ⅱ期選抜、昔は、大変な倍率をかいくぐるのが、高校入試の現実であった。昭和50年度の入学生は470名だが、650名を超える受験生がいて、これでは200名近くが落ちるのだということを考えていた記憶がある。

合格するまで何度も採点をするのだが、そのたびごとに220点だったり、230点だったり、210点だったりして、結局、合格するまでひやひやの連続であったと思い出す。合格最低点は、確か、211点だったと合格後教員から教えられたと思う。自分は225点前後であったと記憶する。

クラスの中には、240点を越えた人物が、4役に選ばれていたと記憶する。その当時は、クラス内に20名程の浪人生もいて、坊主頭の間人と、長髪の間人と雑多な人間模様を形作っていた。

いわき市の北から南まで、果ては小高から常磐線に乗ってくる双葉郡の人々や、大津港や高萩からくる南の人たちも数人在籍していた記憶がある。平一中出身は100名を超えていた。私のいた草野中学からは5人が入学した。

3年間の間、話をした人は、半数ぐらいであったろうか。それでも私は多いほうだと思う。生徒会の活動や出版委員会の活動の中で、先輩や後輩も含めて多くの人々との交流があった。その当時の磐城女子高の同級生たちとも何人かの人々とは、話をすることができた。

3年生の遠足は、四倉子供の村だった。磐城高校生500名弱が、バスで乗り付けると、後から磐城女子高生500名弱がやってきて、フォークダンスなどをして楽しんだ記憶がある。文化祭が3年間なかった学年だったので、先生方の粋な計らいではなかったかと考える。45年前のいろいろなことを思い出した一日でした。